二代実録

遠13
1784
4

帝国図書館藏
特へ13
帝1734
巻4

うかうかとうかれ
利根ぶそまるうつけ
ものの後写

一 ゆえ光こ同像
二 ちら風流ようけあるうち
三 地蓋なんそのようかしるす
四 ゑ帯ゝといさきられ半
五 死よわるまをなげく女房
六 風このぞぶんざ
七 狐もちいよわんごちさんれぬす

饗庭藏書

八　うしひのまぎ〳〵
九　八つおれそうめいのうす
十　ぬしじゃこのなべぞこ
十一　あ面ぬりれんそびうく米
十二　三ちゃれそ〳〵のうす

四之巻目録終

一　利根ぐそもるうつけ花の接穂

わるくしんぼうづるまひこ町元のうゝをやいま
られさしたぜ米のふゝまゝこぐゝんぐ
さまもとなんぶんよのぐゝたれがいづまも
さそ〳〵いきれいよのでゝまゝこと切めゝ
中よりつけるくんやさるをわのくこれるの
ゐる見ハ作でなゝれもゝうこれぐゝぐるお
でござるとゝんをまたるぜよわうこぐるて
けまびやをぐゝのゆくゝきんゝとう

てうしまうこいわでござるといふこ

二　筑紫座敷(つくしざしき)よりけいこうす

わるこちら座敷より四月さらかるまひうたのくらべ
わつめ座敷のうけわたしゆぎやう上人の絵像(えざう)とつ
なぎだいしとをこうくつうしてうけおうれはま
だこれくこちいうんしくさてくゆづくさき
うけわじやこれいうこちらぞうんじやうがわふせ
いろくわんぐんけまどがてんゆうひびてい
ぎやうひこれいはとーんのうけわでとこいけ
まいてひしわやしらるこいはゆぎやうしたいこ

よこちのわうをひろめるえつるごろひいえの
なごれわやしわとーされこむこいへりみ
三　化粧(けしやう)のんこそのさとやひるまま
わうとてろへるこんこそゆきこんのよれやせな
とろへてわるまのやらうんやどそれこうをとんて
さてくひよいこうしやそこるらくがわくんと
いるこうこんのあやーさるらこいつはやまひも
のでやくこうやりでいこござくぬがごがろやや
こうへまもるといへいがいやらくがつこござろは
わのこうをわるこまをこうぐのやるくびすで

でしるべつくいるまでこざるといふれ
四　こゝろとゆこうさいの事
かゝる所わらうこゝろきよく悔わるい
くゝるといさうのいろ〳〵なるとゝるとゝ
うちこゝろとゝりうれいてゝもとうて
いたゞのこゝろをゆとしてゝうるとゝんきれ
ゝうとゝそゝりうれゞやうゞこゝろ
ぬけゞよわまこゝをすこゝんどこゝうとゝ
ゝれぬゝとゝんゝよゝてゝいのゝらゝゝをゝて
けゞたゝゝをゝわゞけゝゝゝゝこゝ〳〵けまゝゞ

わゝゝゝ底底よりゝゝゝゝ

よくよくてかりしれくらんじ
とりれくのうりのようたをあうれなげ
うしやれてかなるまいまぐるまも衣をわう
つくりそなるこいたてをてしらかん
よなくあれといれくこれいんどれいなるま
まどゑをとつるかどとそ
六　角さのむぐんぐ
わるてくれもらくあさのくをとてもぐんぐ
をれぐりをとうくくうれうまぐまのう
しやういくてわくびとうやゆ稲ぐうやん

ばりきうしゝりんどひきくげこうきん
しゝゆまなごで一人わたのうりてうりくと
ほゝうらぐゝうるとふがいごぐ〻ぐくうえてなもと
たぐゝなさるとこいうれがせさごうかうしゝへ
まもなとゝへいどごくゝぐくうごうごうこのを
といねごくいうりまゝうまゝとゝふたごれとゝへて
大きんうゝうそさくくうゝいくくゆやか
うぐゝくいさうなゝゝべらゝれのもぶんぐのさん
とくゝいさうりゝゝのいでとんごふもそのゝうこ

七

狐もとゝのなひわうそいどうさんれゆす

ゝりんゆよ雲の沈つきうんがつよゆきうかゆうえて
那海をとゝうまゝれをやとだくゝうまけゝうぐ
ゆうごゆんのもうりまゝうゝうりてんをどう
とうゝないくゝきゝそゝびとゝうれけまば
りうの中よゆがゝうどゆうりとゝうやうゝう
ぶごけうりゝとうてうゝうゝうりゝとゝうれうゝ女
ようりうゝうゝ女よゆゝうゝくゝとゝうれうまゝどゝ
大きゝうんゝうゝ入りよゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
くゝゝうてけまゝびきうゝゝゝゝうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
つゝゝゆうんゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝけ

まだ海の中まごぞんをあらてあうこれも
ぞけわとれるひとこぞんあるひとやまれさがこの
こぞんさんじさそれが海ことのこぞんとれりしれ
てうてだけまだひとひといつさうりこぞん
あるいくとしくいえん孫の今ぞさじやがそれでも
あるひとしあるさ

八　うしひのまさご

ごぞんやだのドれいらやなさハとしてゆま
しうあわりゆうのぞちなりあるぞこの
きゆくうあ系初ちうとしんあわうとた

初ちうひとりやなさ屋へゆうまさごしれまてうち
づさのうんれこうしれさこいてくるあるとれた
うあハれいぞうれわうあるとれいこつゆいるれん
さあしじやとしん初ちうこうさしるうぞこつゆいる
とこんうまだハひゆこうりのこさゆう屋へ
ごさうこけるぞうこうゆう屋れうんぞこうゆう
こうつましゆこあんぞんこさげるうんぞうきの
ふきゆく舟の中でこうのぞをこうましうぞあうこれ
のれうげでこれうんぞこうとうぞしこうまてゆこ
うんぞこうこのましうれぞこうゆうこうけいよ

ゆらゆらとうごくべし
てをうんざとしまうこと
それやどのようにもいせれとも
のふうこうさるれそづぶとなれけ
まだ紙ちうまうんもあんいでどもづ
なまいぐんぶうとたうれたそづんとそさ

九　八つなのうつめい

かりうまりうぐんぐらわうりようぬちうとう
わをとものうりをとこのようにんをいまなか
どもれうくきぐんうんぶうもれ

ゆふのゆ〜ゐもそわきめ〜ぐりいこいせど
ところ〜ふどうもいとこいせそつわっとんぞう
もいとこそこそとやおとこいひとこいつよなろ
このよわっもとうそぞうえのゆめ〜とくこをと
いてうれがどゆくさどもわまこわっゆにわっ
がわそびのこそへうこんのわこりどれといこを
ろといこ伯のゆ〜がわっとりどうてくをこい
こしゆるといこわっよいゆ〜いそんゆめ〜こを
こつきりこうこうぶこうのいこいこいやめ〜でいゆぶ
ぶいどやこここゆきこいこつめいこのどや

十　ぶびこきのなかぞ
すれうこんこをもつぐなるふかく人をこを来こと
いこちっぐきこよわ〜〜ぐわこうあそこをこと
わへさこく〜ひゆ〜いひこ〜〜わいうんぐおふ
くうへがぐよこぐるうっこもたつ〜やこどぐる
こいふさここうへいどこぐるここいうれがうこを
おかゆ波をこ文がここうこりここゆこきまこと
いこ文こいうるへゆこれのわこうひへぐるここう
ここ〜ぐぐこぐるここ〜〜一町ぐこりつ出こを
ゆくすれゆつなこぐこのぐこいうれがをこを

あんそくのこゝハ何でうちよぶをうぐるすが
ごぐるうとこゝいろれば山やぶらよぶーうぐるこ
とゝごぐーぬといふもうーべなんぬるうこゝで
さーゆるぞとこゝへがれぬるつーさるハそうこのハ
ぬたをしがとよりうをさてよごぐるでいるいろ
ーもうさーよゆさまとるひゆいーるるあろ
といふとうりうーうもますげるなるどそこで
ごぐるうれがそいーうハぬたろうぬるうよるやこもも
ーうをげるいーうもそうでごぐるそうぬるうよなる
ところをうさうあつさーわうれでうるーうとふへで

十一　あ海ぬぐりのんこぐうるす

とこゝ来ようありでのいーやるこゝのまうたう
とこゝをうくーぐれるかゆ（ゆ）へとーぐゆーといふ舟
めめかりたつのよゆ
ーしたうりてちへゆくものとんをこのけまだ
うちうりをれーくーんいぐーこゝーぐゆーをう
けうりてのがうへうるんへうまべてのうーそうる
をうぐーとあけふよるんの方へいまゆせとあ
ゆうまけれバるうこうふよるんへまうりるれハ

てのがゝいぞくさゝのこゝあいてうをとうんゝあ
これ〳〵あづ〳〵れとこのあづりうこゝ（ごそく）ゞ
ござりあるとゝもあづ〳〵どてのがゝこゝいけ
ゐたらくまゝぞござるかゞどんこゝどゞゝわこゝ
ゐくわたゝゐさんたゝ〳〵とゝゝあわこゝをさを（あ）
あいくゝやゝとゝだあつけたんとゐんゐんゐ
といふてのがゝれゝ〳〵くおゝとひまゝこそのかゝゝ
ゐつけどゞそゝくとゝゐるぞよゝやそれゝ
こゐゝこのゝことでいござ〳〵ゐどゞそゝくとゝたゝ（つゝのゝ）く
うゝこゐまゝとゐ〳〵がよゞごゐまゝそのゐまゝとゝゝゐでご

ざゝとゝゝゐてのがゝ〳〵ゝゝゝゐたゝ〳〵ゝゝゐちく
ゐよゝとゝ作ゐゝとゝうゝゝゐまゝゝとゝのゐんれゝと（ゝのゝゝ）
ゞやとゝゝゐがゝそゝくめんがゝくゐゝゝとゝゝ
まゝゝゝゐゐゐゐゝゝでゞゝゐんまゐとゝゝゐゝ

十二　三をゐゝゝゐ

ゐるゝゝゝりゝゝゝゝゞゐ来ゝゝけまゝゐ
町のゞんゝゝゞゞゝゝゝゐまゝけんゐ
ゐゞゝゝのゞゝちゐゝゝゝゝゝゝゝよ
ゝゝゞゞゝゝゝゞゐゐゐゐゐゝゝゝゝ
ゝれゞゝゝゝ祝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（ゐ）

そまくをりるかやぐらくすぐハどこぐ者とこうる
まぐこをくどこあくまをぬとうてあぐと
れやどさるどぐのうまれぬとうてすぐわるう
とうまれうまハどぐ色をまをまをあつぐけて
へやけてくる毎どうとうあう

四ツ長奏終